



令和元年 8 月 22 日
独立行政法人国立科学博物館

科博NEWS展示 「地震計の発達—アナログからデジタルへ—」開催のお知らせ

独立行政法人国立科学博物館(館長:林 良博)は、来る2019年9月3日(火)から9月29日(日)まで、科博 NEWS 展示「地震計の発達—アナログからデジタルへ—」を開催いたします。本展では、世界で最も普及した軽量小型アナログ式地震計と世界初のデジタル式地震計を展示します。

当館には明治から大正、昭和初期に活躍した多くのアナログ式地震計が展示されています。この度、世界で最も普及した軽量小型アナログ式強震計「SMA-1」、地震計の変遷を語る上で重要な世界初のデジタル式強震計「DSA-1」(ともにアメリカ、Kinematics 社製)の寄贈を受けましたので、科博 NEWS 展示にて、これらの地震計を展示します。

- 【主催】 国立科学博物館
【協力】 応用地震計測株式会社
【開催期間】 令和元年9月3日(火)～9月29日(日)
【開催場所】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)

日本館1階「地を知る—地震計—」のコーナー

本件の詳細については、以下にお問合せください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

担当研究員: 室谷 智子(理工学研究部 理化学グループ 研究主幹)

研究活動広報担当: 稲葉 祐一

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8984 FAX: 029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

展示概要

日本の地震学は、地震計の発達とともに歩んできました。現在、当館には明治から大正、昭和初期に活躍したアナログ式地震計が多く展示されています。この度、応用地震計測株式会社よりアナログ式強震計「SMA-1A」、デジタル式強震計「DSA-1」（ともにアメリカ、Kinematics社製）の寄贈を受けました。特に「DSA-1」は1970年代に世界で初めて作られたデジタル式の地震計で、地震観測の分野において画期的な開発でした。また、「SMA-1A」は世界で最も普及した強震計で、それまで大型だった地震計の軽量小型化を図った地震計です。本NEWS展示では、アナログ式地震計からデジタル式地震計へと移り変わる流れを示すこれら2台の地震計を展示します。

※強震計・・・地震による大きなゆれ（強い地震動）を観測するための地震計

展示物

アナログ式強震計 SMA-1A (Strong Motion Accelerograph)

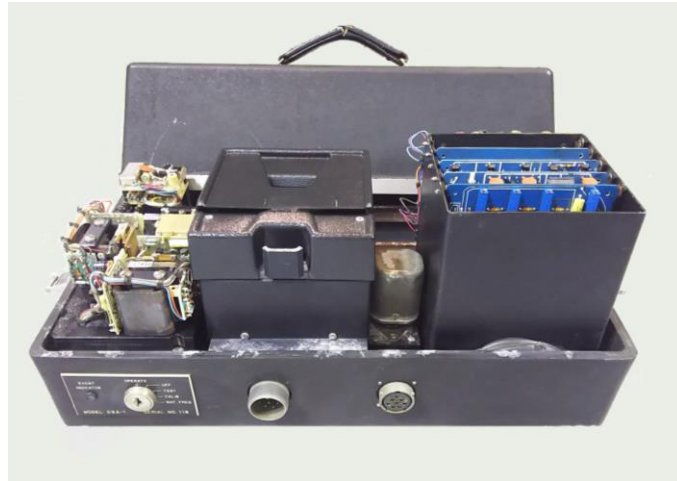
地震工学研究において軽量小型化した第二世代の強震計として、1960年代後半にアメリカの Kinematics 社で開発された地震計です。世界各地で使われた最も有名なアナログ式強震計で、約 8000 台が販売されましたが、アメリカ国内よりも海外に多く展開されました。日本でも活躍し、光源の動きを感光フィルムに記録する光学式の地震計です。



アナログ式強震計「SMA-1A」（アメリカ、Kinematics社製）

デジタル式強震計 DSA-1 (Digital Strong Motion Accelerograph)

アメリカの Kinometrics 社で 1970 年代前半に開発された、世界初のデジタル式強震計です。販売台数は約 500 台強と SMA-1A に比べると少ないですが、地震計業界や強震観測分野でのエポックメイキングな強震計です。データはカセットテープに記録していました。



デジタル式強震計「DSA-1」(アメリカ、Kinometrics 社製)